

福岡県訪問看護ステーション連絡協議会
令和２年度ブロック別研修会

日時：令和３年３月２５日（木）１９時

福岡県訪問看護ステーション連絡協議会
令和2年度ブロック別研修会プログラム

△日 時：令和3年3月25日（木）19：00～20：00

△開催方法：Web配信（Zoomウェビナー）

1. 開 会

2. 挨拶

3. 講演①（20分）

テーマ：「訪問看護ステーションにおける

新型コロナウイルス感染症対策について」

講 師：福岡徳洲会病院感染管理室 室長 伊藤 恭子 氏

講演②（20分）

テーマ：「利用者及び職員が新型コロナウイルス感染症に感染、又は

濃厚接触者と判定されたときの業務対応について

～体験談～」

講 師：福岡県看護協会訪問看護ステーション「こが」

所長 吉田 由美子 氏

4. 意見交換（20分）

5. 閉 会

講演①

「訪問看護ステーションにおける
新型コロナウイルス感染症対策について」

福岡徳洲会病院感染管理室

室長 伊藤 恭子 先生

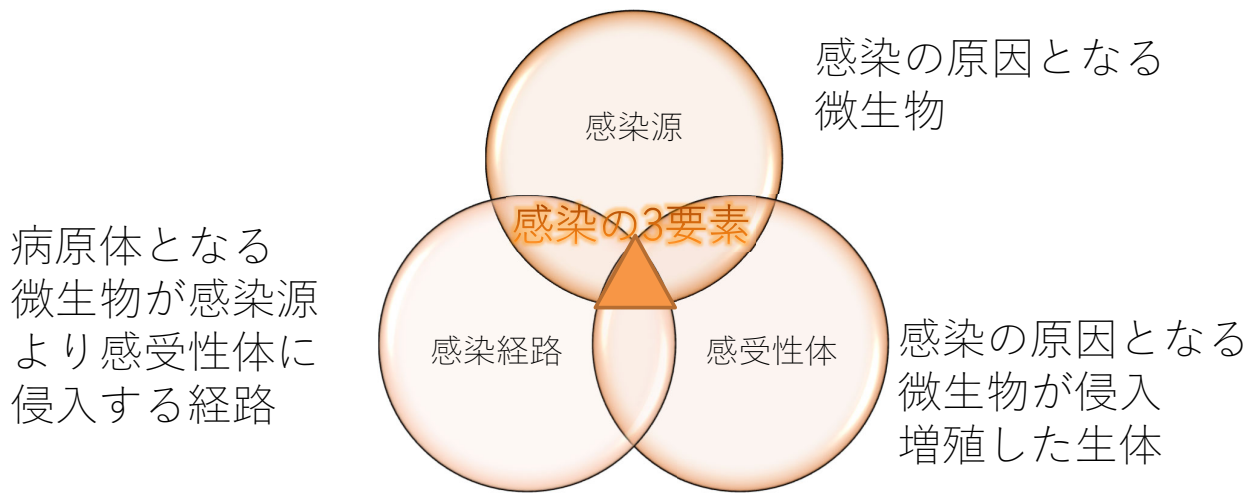
訪問看護ステーションにおける 新型コロナウイルス感染症対策 について

医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院
感染管理室 室長
感染症看護専門看護師
伊藤 恭子

お話しのポイント

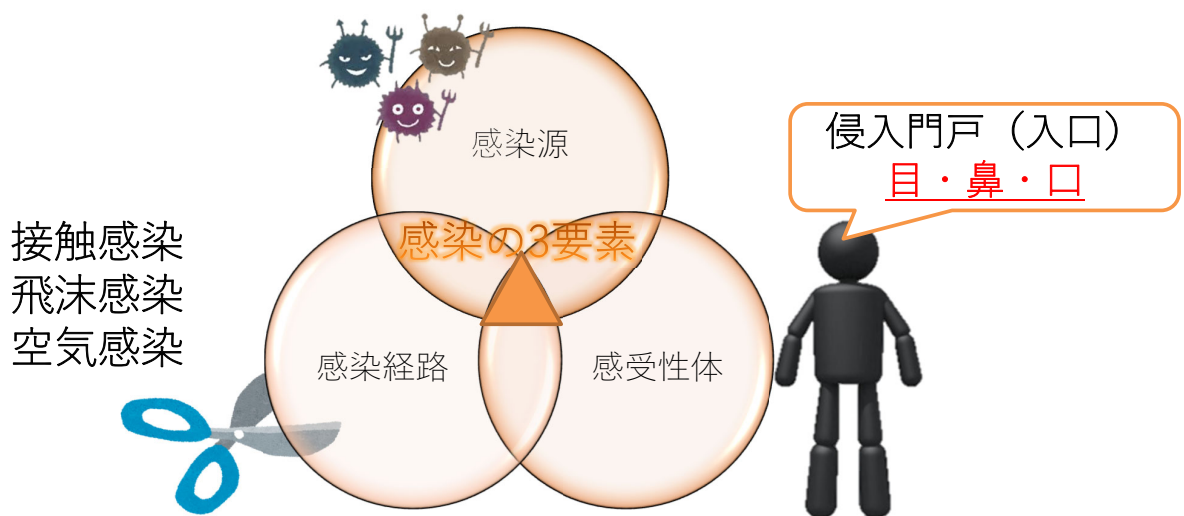
- 感染成立には**病原体、感染経路、侵入門戸**の3つが必要
- 感染対策は、**感染経路を考えて対応**する
- 感染症を「ゼロ」にするのは難しいが、**拡大阻止**は可能
- 日常的な**標準予防策と感染経路別予防策**の組み合わせが大切

感染の成立



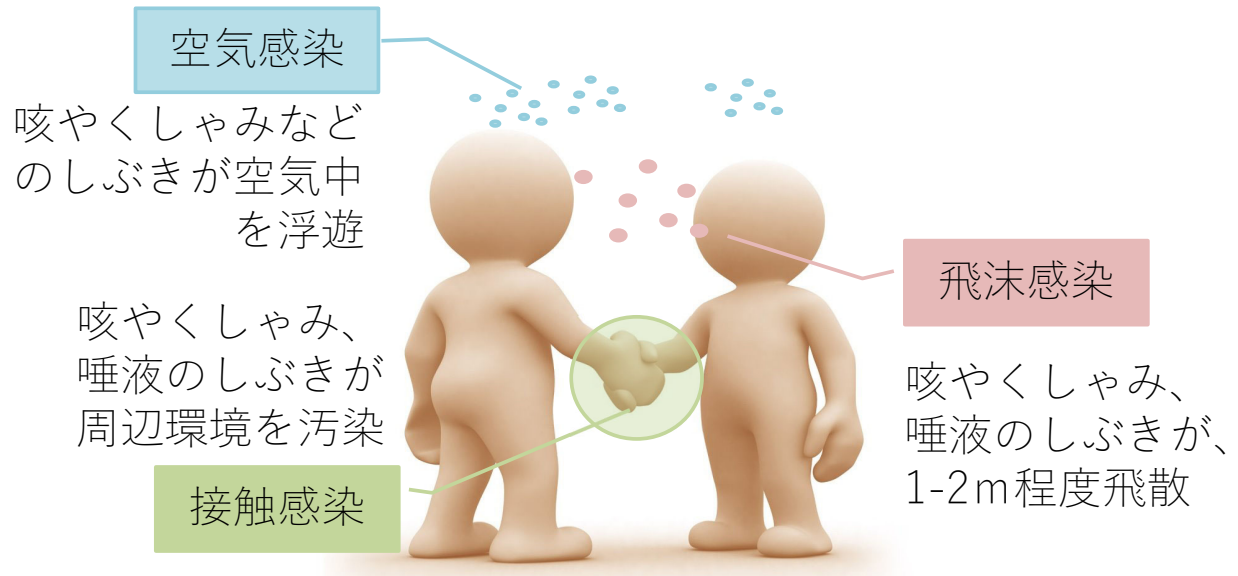
<http://www.hogy.co.jp/medical/infect.html>参照、一部改変

感染経路の遮断

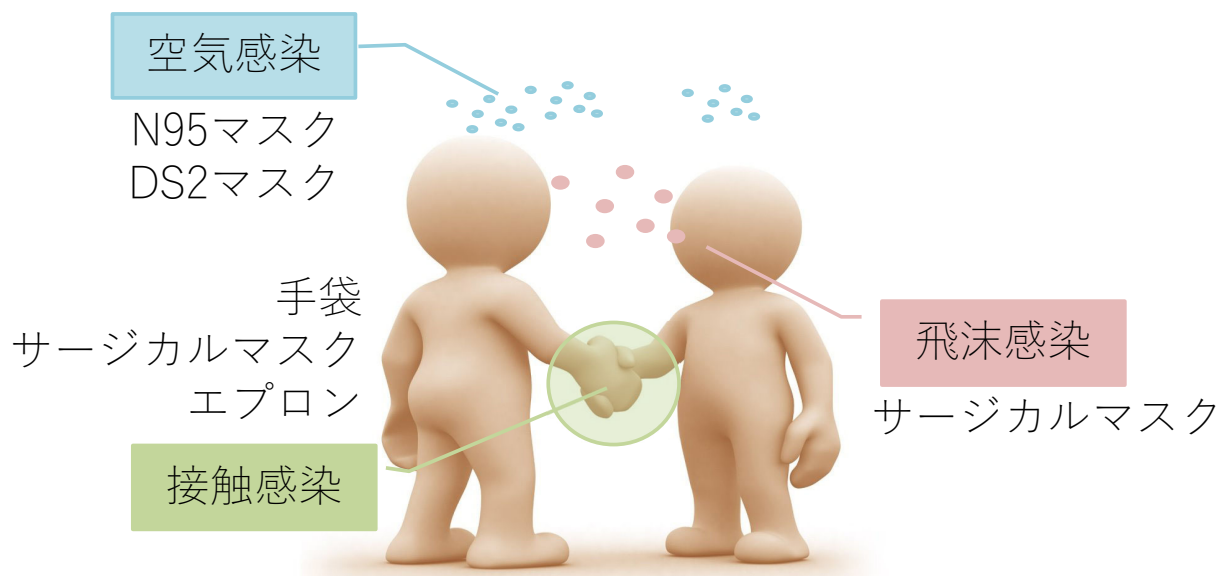


<http://www.hogy.co.jp/medical/infect.html>参照、一部改変

感染経路別予防策

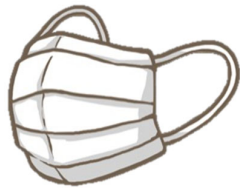


感染経路別予防策



COVID-19における感染経路の遮断

- 感染経路別予防策
(飛沫感染対策・接触感染対策)



ユニバーサルマスキング



手指衛生

接触感染対策

- 触れる場所：手指、衣服、侵入門戸

手 指：手袋＋手指衛生

衣 服：使い捨てエプロン

侵入門戸：サージカルマスク



手袋の特性

手袋にはピンホール（針穴）が開いている可能性
手指衛生の代わりにはならない



外したら、手指衛生！（セットです）

手指衛生

病原体は手を経由して移動する可能性が
高いため、意識的に行うことが大切



手指衛生の種類と方法

- 流水と石けんによる手洗い

→手が見た目に（感覚的に）汚れている場合
感染性胃腸炎（アルコール無効）流行期

- アルコール製剤による擦式手指消毒

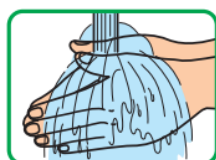
→手が見た目に（感覚的に）汚れてない場合
短時間で効率よく手指表面の汚れを落とす

正しい手洗い方法

※正しい手洗いは30秒程度かかる

手洗い手順（泡石けん液）

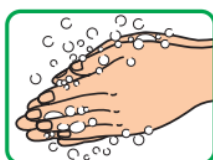
SARAYA



① まず手指を
流水でぬらす



② 泡せっけん液を適量
手の平に取り出す



③ 手の平と手の平を
擦り合わせよく泡立てる



④ 手の甲を もう片方の
手の平で もみ洗う（両手）



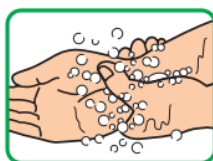
⑤ 指を組んで 両手の
指の間を もみ洗う



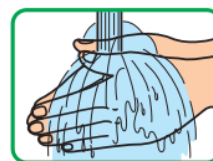
⑥ 親指を もう片方の
手で包み もみ洗う（両手）



⑦ 指先を もう片方の
手の平で もみ洗う（両手）



⑧ 両手首まで
ていねいに もみ洗う



⑨ 流水でよくすすぐ



⑩ ペーパータオルで
よく水気を拭き取る

© SARAYA CO.,LTD.

正しい手指消毒の方法

※正しく1回量を用いた手指衛生は20-30秒かかる

手指消毒手順（アルコール消毒ジェル）

SARAYA



飛沫感染対策

- 触れる場所：侵入門戸、（手指）

侵入門戸：サージカルマスク
（手 指：手指衛生）



マスクを着けることの意味

- 咳エチケット

→自身の咳やくしゃみを防止する意味

- 飛沫感染対策

→飛散する飛沫の吸込みを防止する意味

- 病原体の取り込み防止策

→侵入門戸（目・鼻・口）に無防備に触ることを防止する意味

コロナ禍において実践してほしいこと

- 訪問先の方が、のちに「COVID-19陽性」とわかって大丈夫な対策
- 「濃厚接触者」にならないための対策

（例）

適切な防護具無しに、1m程度の距離で15分以上接触があった場合

適切な防護具とは…



マスク と マスク

対面する相手がマスクなし（着用不可）
の場合、自身が目の保護を追加



※対面した相手が、
のちにCOVID-19陽性となっても
大丈夫な対策

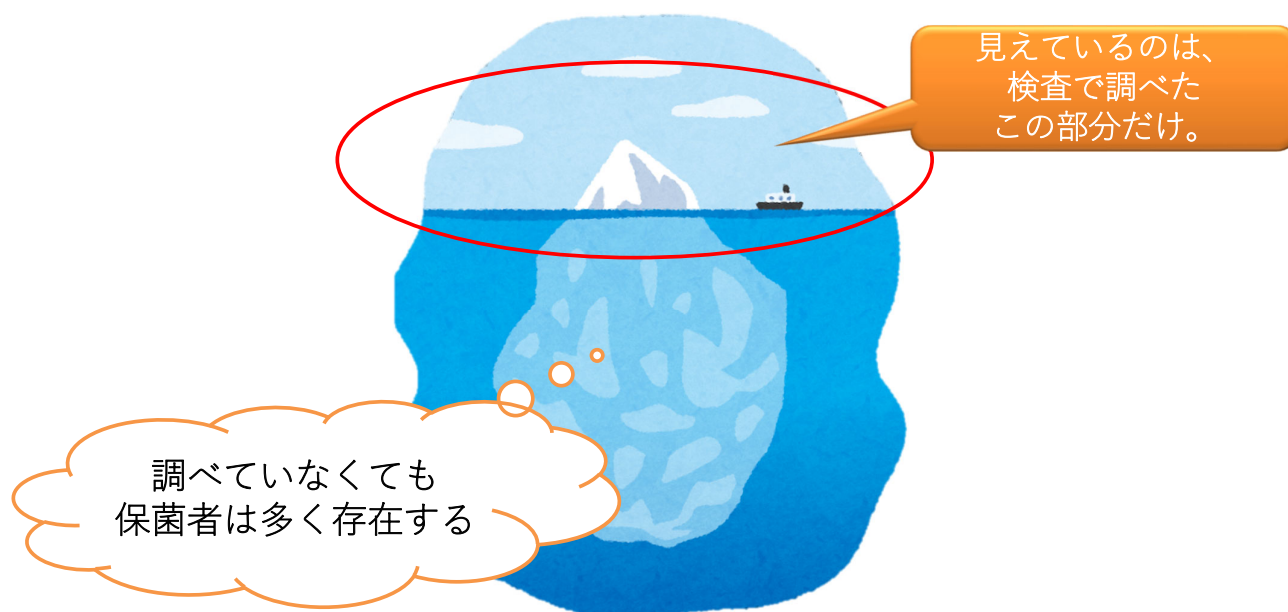
「感染症」をゼロにはできない

対策によって感染症患者を減らすこと
（拡大阻止）はできる



適切な防護具と手指衛生

病原体がいるかどうかはわからない



標準予防策

～Standard Precaution～

ヒトの身体から湿った状態が出てくるもの
(湿性生体物質：血液、体液など) は
すべて、感染性があるものとして取り扱う



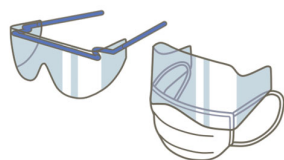
すべてのヒトに行う対策

個人防護具

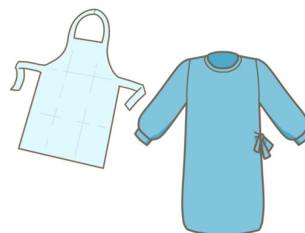
Personal protective equipment (PPE)



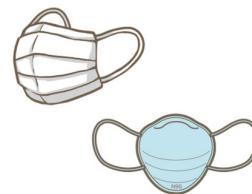
手袋



ゴーグル・シールド



エプロン・ガウン

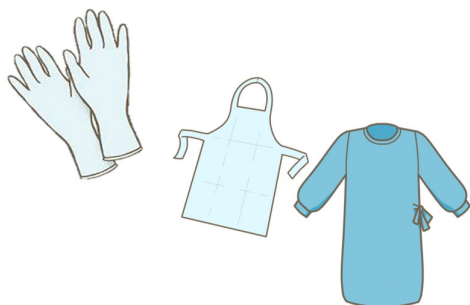


マスク

手が汚れる可能性がある場合
口や鼻から吸い込む可能性がある場合
衣服を汚染する可能性がある場合
目の粘膜を汚染する可能性がある場合

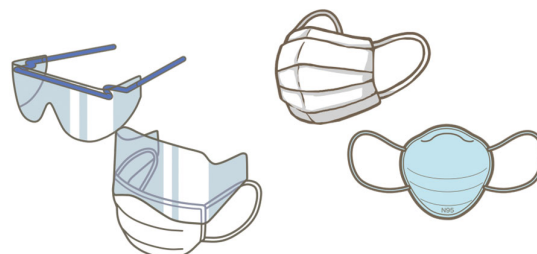
防護具の考え方

・ 患者毎に交換するもの



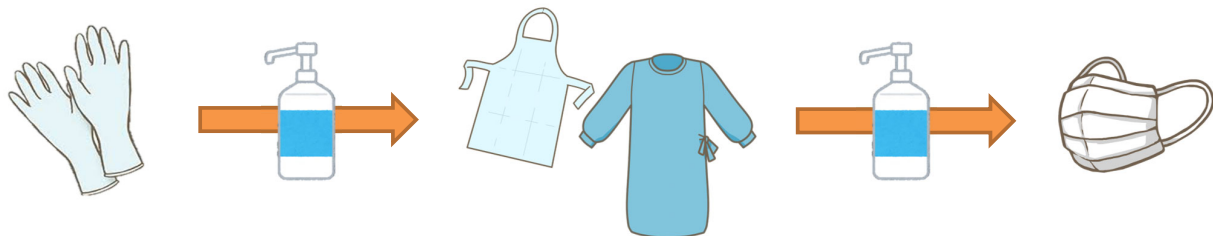
・ 患者に直接接触する部分

・ 患者毎に交換しなくて良いもの



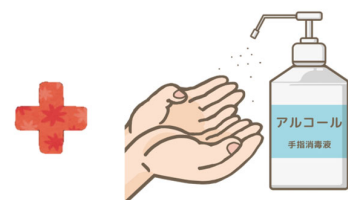
・ 患者に直接接触しない部分

外す順序と外し方が重要!!

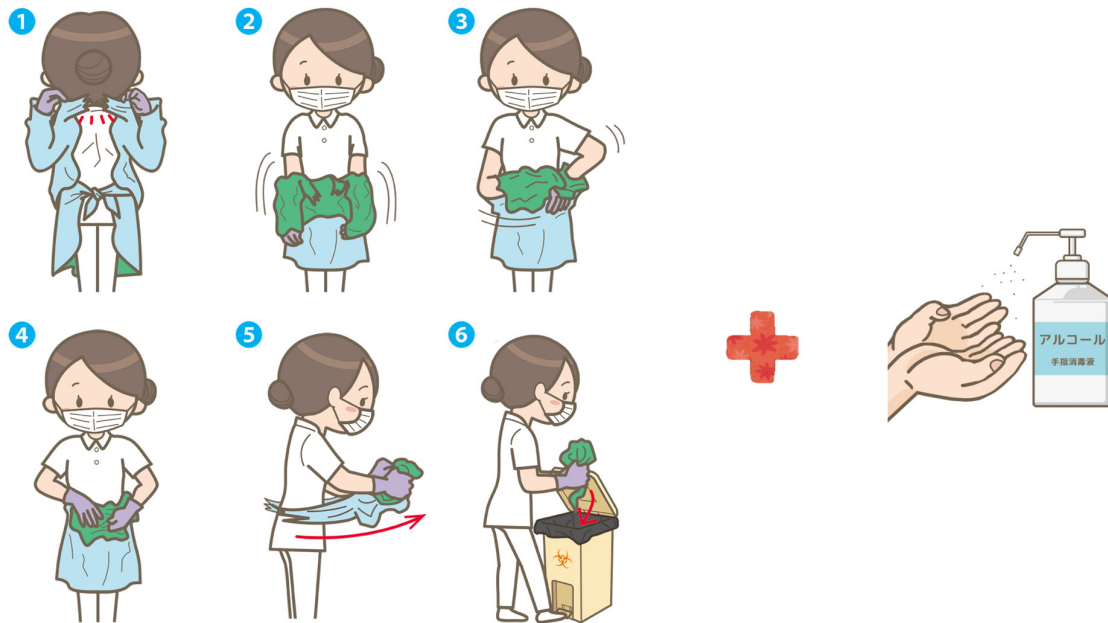


手袋

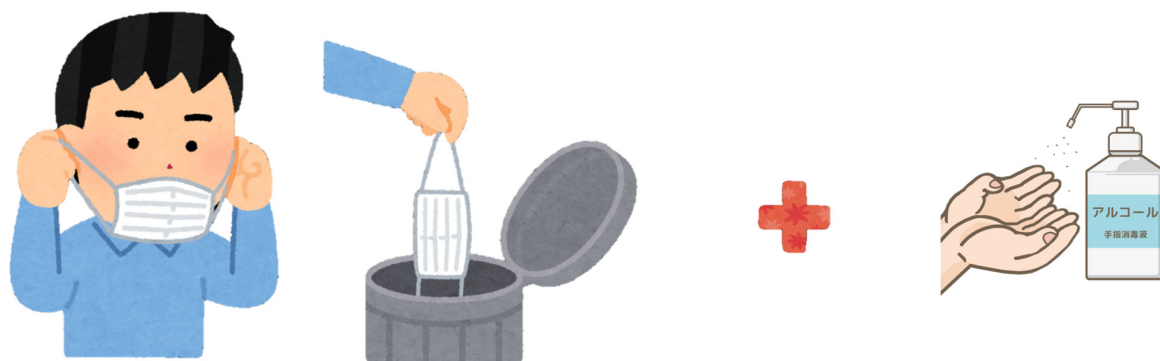
手袋の外し方



エプロン・ガウン



マスク



感染対策の組み合わせ

- 標準予防策

→感染症の流行に関わらず、湿性生体物質を取り扱う際必ず行う対策（すべてのヒト）

- 感染経路別予防策

→病原体の種類（感染経路）によって追加する対策（必要に応じて）

受け取らない・渡さない対策

- 訪問中（ケア中）はマスク装着を依頼
- 難しければ、介助者側が目の保護を足す
- 訪問前、訪問後の手指衛生
- 体調不良時の勤務を控える
- いつでも、だれもが同じ対策を…

ご清聴ありがとうございました



— M E M O —

講演②

「利用者及び職員が新型コロナウイルス感染症に感染、
又は濃厚接触者と判定されたときの業務対応について
～体験談～」

福岡県看護協会訪問看護ステーション「こが」

所長 吉田 由美子 先生



利用者及び職員が新型コロナウイルス感染症に感染、または濃厚接触者と判定されたときの業務対応について

体験談

- 
- 福岡県看護協会 訪問看護ステーション「こが」
- 
- 管理者 吉田由美子



事前の準備として、

- 感染対応マニュアルや、連絡方法、協力していただけるステーションの確保、事前の利用者・家族様への感染対応についてのお願い、情報提供についての同意を得てはいましたが・・・
- 感染予防対策として、手洗い・手指消毒、マスクの着用を実施、処置を行う場合はエプロンやガウンの着用としていました

夏の日、木曜日

- 職員利用者宅を訪問
- いつもと同じように体調管理の実施、
- 体温36.4度 脈拍84回/分 血圧144/78mmHg SPO2 96%
- 「どうもないよ」と言い、いつもと変わらずリハビリを実施
- 職員マスク、本人はマスクせず対応

- 当日夕方 家族より水も飲まず、意識がもうろうとしているどうしたらいいか、との連絡を受け、電話での対応、水分を摂っていただき、受診されるよう勧める
- 金曜日(翌日)
- 家族より昨日、電話後は、意識があり、水分を摂り休ませた。病院はどうしたらいいかと問われ、総合病院を受診するよう勧める(主治医の病院が遠いため・・・)
- 通常に外来受診し、点滴を受け、レントゲンで肺に影がみられるとのこと。念のため検査をしておこうと言われ、**CPR検査を受けたと話される。(後日の話から)**

- 
- 
- 土日は、連絡なく、私どもは何も知らなかった・・・



月曜日

利用者家族より、ステーションへ電話連絡あり。

- **新型コロナ陽性反応**があり、**保健所**に検査に行くように言われた。
- **保健所より、訪問した職員と一緒に来ていただき、検査を受けるように**とのことで、連絡を受けたとのこと。
- 担当リハ職員へ伝え、すぐ保健所へ直行検査を受け、その後自宅待機とした



濃厚接触者となりました

ステーションの中では・・・

- 連絡を受けた後、慌てて、職員へ連絡。
- 事務所にいた、私と、ケアマネ3名、事務職員1名で右往左往することとなりました

ステーションの中では・・・

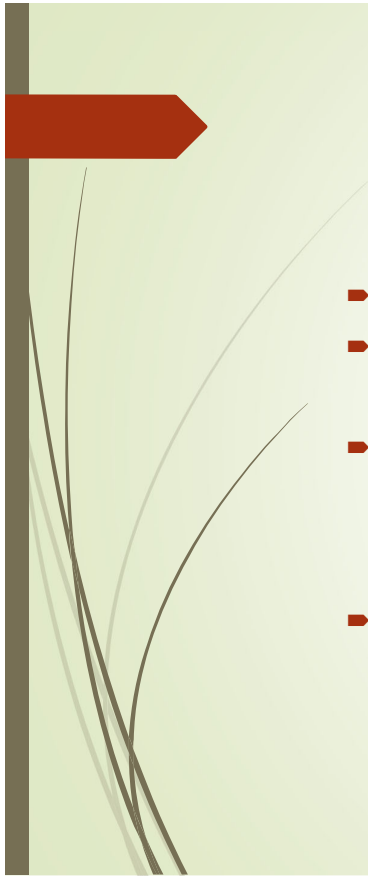
- 看護協会 理事へ報告。相談。
- 学生実習予定が入っていたため、急遽 断りの連絡する。
- 経緯を報告する.....
- 当日、翌日の訪問を中止。
- また、濃厚接触者となった職員については、陰性反応が出ても、2週間は出勤停止となった

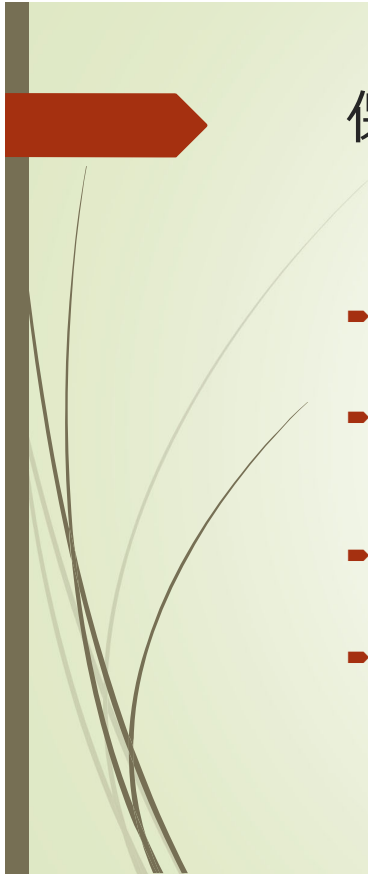
ステーションの中では・・・

- 当日と、翌日の訪問予定の利用者へキャンセルの連絡し、訪問予定の方たち利用者60人、重症者の主治医への連絡をする。
- 職員が、感染者に接触した後に訪問した利用者様へ連絡。ケアマネや他事業所へ連絡
- 利用者別対応・・・・・・・・
- ターミナル期、A様については、他の訪問看護ステーションへ訪問の依頼をし、今日から訪問していただくこととなる。
- 人工呼吸器使用中の B様については、2か所のステーションが入っていたので、一緒に入っている訪問看護ステーションへ訪問依頼する。
- もう一人の人工呼吸器利用のc様については、家族より対応可能とのことで、訪問キャンセルの連絡が入る

- 重度褥瘡の D様については、訪問診療のクリニックより処置に行くことが可能とのこと
- 重度褥瘡E様は、病院での処置をしてくるのでキャンセルとなる。
-
- その他の利用者様については、事情を説明し、キャンセルについて了承を得る。
-
- 当事者のリハビリ担当の利用者の主治医について連絡報告した

先生や、他のステーション、
サービス事業所、ケアマネ
さん、家族の方々に助けら
れました。
感謝、感謝です

- 
- ステーションデスクや、ドアノブ、など消毒
 - 非常勤職員へはステーションへの立ち寄りを禁止。
 - 職員をグループ分けし、ステーションの中に入る人数を制限。記録物の提出を入り口で行った。(A 午前のみ B 午後のみなど また、直行直帰、時差出勤を実施)
 - 介護保険課へ連絡、保健所の指示を待つこととなった。



保健所に行った職員から報告・・・

- 職員より、検査結果については、明日連絡が来るとのこと。
- 濃厚接触者となった職員はそのまま、検査結果を自宅でまち、結果を連絡してもらうこととなった
- (自主的に、結果が出るまで家族は仕事や学校を休みました)
- ステーション職員も連絡があるまで、出勤・外出をせず自宅待機としました。

濃厚接触者となった職員から連絡

- 翌日午後、検査結果が**陰性**だったとの連絡を受けたが、2週間の出勤停止のままとしました。
- **結果をすぐに・・・**
- 主治医や、協会、介護保険課、利用者、他事業所、ケアマネへ連絡。
- 職員へ連絡し、翌日から訪問再開の連絡
- 職員は、手洗い、手指消毒の徹底、マスク、フェースシールド、ガウン、グローブをつけて訪問。(入浴介助では、フェイスシールドは断念しました)

職員が濃厚接触者となって体験したのは、

- 訪問は結果的に連絡があったときと翌日はすべて中止しました
- 他事業所、サービス事業所、主治医へ訪問を依頼しました。
- 利用者家族の協力を得ました。
- 発熱がなくても感染されている可能性があり、濃厚接触者となることがある。
- 連絡を受けての対応となるが最悪のことを考え、早急な対応を迫られる。事前準備やシミュレーションが必要だと思った
- その後
- 出勤は時差出勤と直行直帰、非常勤は入り口での記録の受け渡しのみ。とした。
- 現在は、毎日出勤時に職員の体調チェックと訪問時フェイスシールド、ガウン、マスク着用としました。
- 濃厚接触者とならない方法を考えていかなければならないが・・・

- その後新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者対応時のチェックリストを作成した
- 適宜、訪問が必ず必要な利用者、他のサービスで対応可能な利用者、キャンセルや振替可能な利用者と、区分をつけて、再度濃厚接触者となったときには素早く対応できるようにした。
- また2週間以上、ステーションが閉鎖となった場合は、他の事業所の訪問を望まれるか確認しています。

問題点として

- 訪問にすでに出ており、連絡がすぐ着かなかった。
- 事務所だけで大勢の利用者へ連絡すると、時間がかかったため、担当職員からの連絡が必要となった
- 管理者不在の時の連絡や指揮系統が分かりにくかった
- 今回うまく、訪問の調整ができたが、人数が多くなると、他事業所や、クリニック、家族が受けられる人数に限られてしまう。
- 紙カルテであったことで、情報がステーションに戻らないと得られなかった
- 感染予防物資が足りなかったため、工夫しながら使うことが必要となった

新型コロナ感染の利用者が出たことで変えていったことは・・・

- 職員をグループ分けし、ステーションの中に入る人数を制限。記録物の提出を入り口で行った。(A 午前のみ B 午後のみなど また、直行直帰、時差出勤を実施)
- 緊急時は各担当者から連絡を取ってもらうこととした
- 連絡方法順序を壁に貼りだした
- 毎日訪問が必要、他サービスの振替が可能、家族対応で可能、など利用者を振り分けすぐわかるようにした
- タブレットの導入
- 物資について他の物資で対応可能なものの、再利用可能なものはないか考え使った
- 現在、マスク、フェイスシールド、ガウンを使用して
- 利用者がCPR検査を受けた時には同日に訪問した職員は濃厚接触者として、結果が出るまで自宅待機。
- 発熱した利用者訪問の場合、玄関にて、ガウン、フェイスシールド、マスク、手袋、キャップ、靴カバーを着用し訪問とした。

ご清聴ありがとうございました・・・